

中長期目標 (学校ビジョン)	安心、支え合い、学び合いのあふれる学校 ～児童生徒一人一人が自らの力を発揮しながら安心して学び、関係機関とつながり 合って幸せに生きるための舞台づくりをする学校～				今年度の 重点目標	1. 安心して学べるための環境づくりに努める。 2. 支え合い、つながりあう体制づくりに努める。 3. 豊かな生き方をめざしたキャリア教育を推進する。 4. 自己の授業を見直し、授業改善を行う。	
年 度 当 初					評 価 結 果 (10)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 安心して学べるための環境づくり	(保健部) 緊急時を念頭に置いて訓練に取り組み、素早く、正確な対処ができる。	毎年度訓練を行っているが、教職員が素早く、正確な対処ができるための知識と技能に差がある。	学校の教職員が、緊急時を想定して素早く、正確に対処ができる集団になっている。	訓練で出た課題をどう解決すべきかを討議する時間を設け、緊急時対応の正確さを高める。	・全体での救急訓練を2回、救急ウィークを2回実施した。実際の場面を想定し、行ったことで連絡方法や内容を変更したり、見やすい表示について見直した。	C	・日常的な話題の中に、緊急時の対応についての話を取り入れる。
	学校看護師や医療機関の指導と協力を得て、安心安全な学習の環境を整える。	学校看護師や医療機関からの情報を活かし、予見して事前に環境を整える必要がある。	関係者との連携や指導のもとに、環境改善している。	学校看護師や医療機関の指導やヒヤリハット事象から学習環境の改善を提案する。	・ヒヤリハット報告後速やかに経過や対策を話し合う時間を持ち、全体に報告することができた。 ・ヒヤリハット0レベルも報告があり、教員の意識レベルの高まりを感じる。	B	・朝礼や終礼等を活用して、危機意識の継続を図る。
2. 支え合い、つながりあう体制づくり	(総務部) 「保護者と教職員の会」の充実を図り、保護者と協働で学校教育を進めるための基盤をつくる。	保護者と担任とのつながりは強いが、保護者同士のつながりや学校と協働していく体制づくりは十分とはいえない。	保護者同士の関係が広がり、学校教育活動に協力している。	PTA活動や参観日等に出席しやすい体制を作り、参加者を増やす。	・「保護者と教職員の会」の活動協力を行ったり、校長と保護者の談話を設けたりするなど、保護者同士がつながる働きかけを行った。	B	・役員その他の保護者の協力を得て、今後も継続して行事参加への誘いを行う。
	情報発信の仕方を工夫し、鳥養の教育に関心を持つ人を増やす。	学校行事や公開週間で本校を訪れる関係者が固定化し、本校の教育を知る人が限られている。	本校の教育について知る人が増え、公開週間等で学校を訪れる人が増えている。	学校活動の案内を、ボランティアサークル、公民館、民生委員等学校関係者以外にも拡大したり、報道機関を利用したりして、情報を	・これまでに公開週間を2回実施し、平均100名以上の来校者があった。しかし、より工夫した情報の発信が求められる。	B	・学校公開週間を知らせる看板を地域や病院に設置したり、学校関係者以外にも案内を拡大したりする。
	(自立活動部) 同じ障がい種の特別支援学校や療育園との連携を深め、本校の病弱・肢体不自由教育の専門性を高い。	他校との連携が進んできているが、それらの情報を活かして、教職員の専門性を高めるまでには至っていない。	自立活動に関する通信や他校との連携で得た情報を、実践に活かす教職員が増える。	他校や療育園から得た役立つ情報を職員に積極的に伝え、専門性の向上に活かす。	・毎月他校の通信を紹介したり、お役立ち勉強会や夏季勉強会を実施したりした。	C	・勉強会等で得た情報を日常の実践に活かしているか情報を収集し、勉強会の持ち方を改善していく。
	(地域・教育支援部) 学校の支援を関係する施設・機関につなぎ、児童生徒の社会生活が豊かなものになるように努め	豊かな社会生活のために他機関に支援方法を伝え、共有していく必要を感じる。	保護者・学校・関係機関の支援がつながり、豊かに生活している。	個別の支援会議等、保護者や関係機関と連携する機会を設けるよう働きかける。	・保護者から出された要望に対して、支援会議を開くことができた。	B	・今後も保護者の声に応じながら、支援会議や連携に結びつける。
3. 豊かな生き方をめざしたキャリア教育の推進	(全体) 児童生徒の卒業後の豊かな生活や可能性の伸長をめざしたビジョンの実現を保護者と一緒に進めていく。	担任と保護者が卒業後の豊かな生活をめざし、同じ目的意識をもって語ったり、行動したりするまでには至っていない。	担任と保護者が卒業後の豊かな生活のために今何をすべきかを一緒に考え、同じ目的意識をもって行動している。	担任と意識や課題の共有を図るために、①施設見学、②施設利用体験や職場体験、③子どもの明日を考える会、に多くの保護者が参加するように働きかける。	・全体でも学部でも進路研修会に対する保護者への呼びかけを行っているが、参加者を増やす工夫が必要である。	C	・役員その他の保護者の協力を得て、行事参加への誘いを行う。
	(地域・教育支援部) キャリア教育研修会などを通してキャリア教育の考え方(捉え方)を理解し、実践に生かす。	学部や個人によって、キャリア教育に対する捉え方や実践に違いがある。	生き方教育としてキャリア教育を捉え、意識して実践に取り組む。	教職員が学校教育全体を通してキャリア教育を考えることができるよう、評価シートを作成し活用する。	・評価シートを作成したが、学部により活用の意識が異なる。	D	・各学部の目標検討会でキャリア教育の目標を提示し、意識する機会を設ける。
4. 自己の授業を見直し、授業改善	(研究部) わかる喜び・できる喜びのある授業をめざして、授業の改善と充実に努める。	授業改善のポイントが職員に十分伝わっていないため、授業の改善まで至っていない。	明確になった改善ポイントを活用して、日々の授業改善を行っている。	各学部ごとに明確になった授業の改善策を活用して、日々授業改善をしている。	・研究会や授業公開・研修会等を実施し、各研修会の案内等を、職員図書の実、研究部だよりの発行を行った。しかし、教職員間で十分に共有できていない。	D	・授業公開で得られた成果や授業の改善ポイントをわかりやすくまとめ、教職員に発信する。
	(文化情報教育部) 情報機器、視聴覚機器の効果的な活用を推進し、わかる授業や魅力ある授業を実践する。	情報機器や視聴覚機器の効果的な活用に差がある。	学習のねらいに合わせて効果的に情報・視聴覚機器を活用した学習を実践している。	情報機器活用研修会や機器に関する日常的な情報伝達を行い、授業での効果的な活用についてのアドバイスや実践紹介を行う。	・情報機器について研修会を実施したり日常的な情報伝達を行った。効果的な活用と情報セキュリティについてアドバイスと指導を行ったが、個々の情報機器の活用に差がある。	C	・たくさんの職員が、視聴覚機器を効果的に活用できるようなアドバイスや実践紹介を行う。